

マルコによる福音書9章42-48節 「地獄の教えをどう捉えるか？」

1A 他者をつまずかせる罪

1B 小さな子のようなへりくだり

2B 味方である、反対しない者

2A 自分をつまずかせる罪

1B 永遠のいのち

2B 神と自分との分離

3B 神の御怒り

3A 自分の意志で行く地獄

1B 神も憎まれる所

2B 神の善を憎む心

3B 神のかたちのゆえの永遠性

本文

マルコ 9 章を開いてください。午後に 9 章全体を読みますが、今朝は 42-48 節に注目します。「42 また、わたしを信じるこの小さい者たちの一人をつまずかせる者は、むしろ、大きな石臼を首に結び付けられて、海に投げ込まれてしまうほうがよいのです。43 もし、あなたの手があなたをつまずかせるなら、それを切り捨てなさい。両手がそろっていて、ゲヘナに、その消えない火の中に落ちるより、片手でいのちに入るほうがよいのです。45 もし、あなたの足があなたをつまずかせるなら、それを切り捨てなさい。両足がそろっていてゲヘナに投げ込まれるより、片足でいのちに入るほうがよいのです。47 もし、あなたの目があなたをつまずかせるなら、それをえぐり出さない。両目がそろっていてゲヘナに投げ込まれるより、片目で神の国に入るほうがよいのです。48 ゲヘナでは、彼らを食らうじ虫が尽きることがなく、火も消えることはありません。」

今朝は、私たちの、神の言葉を信じて生きる生活の中で、時にとても不快になる話題について真正面から取り扱います。それは、「地獄」です。ここに「ゲヘナ」とありますが、それが地獄のことです。私たちは、地獄について存在を信じていても、それを日常の生活の中で語りたくありません。けれども、地獄が必要であることも知っています。全ての悪がそこに閉じ込められています。サタンがそこに最終的に投げ込まれますから。神が正しく裁いてくださった結果であることも知っています。けれども、それでもそこは悪が閉じ込められるところですから、それが存在すること、また何が起きているかについては、あまり考えたくない、不快であり、胸糞が悪くなります。もし、そのような不快な思いをしておられるならば、皆さんの心は健全でしょう。愛は、「 I コリ 13:5-6 人がした悪を心に留めず、不正を喜ばずに、真理を喜びます。」とあるからです。

私たちの日常生活でも、そういうことは沢山ありますね。去年の終わりに、オウム真理教の死刑囚に、死刑が執行されました。死刑が執行される場面に誰がいたいと思うでしょうか？そこで最後まで監視しなければいけない看守の人たちは、心的にトラウマにならないか？と心配です。けれども、そのまま裁かれずにいるということも日本の社会は望まないし、公正な裁判の結果、そうなったと信じています。または、ペットの殺処分はどうでしょうか？これは、世界の国々においてはほぼゼロに近いぐらい減らすことができているのですが、日本は相変わらずです。ペットには何の罪もありませんが、そこには制度の不備、ペットショップの都合、飼い主のわがままが詰まっていますが、それをペットがもろに受ける訳です。そうした光景を見たくもありませんが、けれども、そこで処分をしている職員の方々がおられるのです。その他、人の罪のゆえにしなければいけない尻拭いのような作業は、世の中にたくさんあります。そして、神はご自分の永遠の人類に対するご計画の中で、ご自身、望まれていない、むしろ憎んでおられることを行われています。それが、地獄の中で人々が永遠に苦しむことです。

しかし今朝は、それを真っ直ぐに見つめて、それで信仰をもってその真理と現実を受け入れていきたいと思います。

1A 他者をつまずかせる罪

1B 小さな子のようなへりくだり

まずイエス様がここでお語りになっている背景を説明させていただきます。弟子たちに対して、イエス様は、ご自分がキリストであることを、ペテロの告白によって明かされました。そして弟子たちのうち三人は、イエス様が高い山で栄光の姿に変えられたのを目撃しました。イエス様は、ご自身がキリストとして、ユダヤ人指導者に見捨てられ、ローマの十字架によって殺され、三日目によみがえることを語られましたが、弟子たちには全く理解されませんでした。むしろ、イエス様がキリストであることを明かされたことによって、ローマを倒して、神の国を立てられ、そこで自分たちは大きな報いを受けると思っていました。それで起こったのが、「だれが偉いか」という議論です。自分がどの重要な地位に付けるのか？イエス様の右の座、左の座に着くのは誰なのか？というようなことを議論し始めたのです。

そのことをイエス様は察しておられて、それで、「一人の子供の手を取って、彼らの真ん中に立たせ、腕に抱いて彼らに言われた。」とあります。「9:37 だれでも、このような子どもたちの一人を、わたしの名のゆえに受け入れる人は、わたしを受け入れるのです。」と言われました。へりくだりなさい、と言われているのです。

2B 味方である、反対しない者

ところが、あまり分かっていません。ヨハネが、こう言いました。「9:38 先生。あなたの名によって悪霊を追い出している人を見たので、やめさせようと思いました。その人が私たちについて来なかつ

たからです。」自分たちの仲間ではないから、自分たちに付いてこないからやめさせようとした、というのです。そこでイエス様は、自分に反対しない者は味方なのだと言われ、たった一杯の水を弟子に飲ませてくれる人は、報いから外れることはないと話されました。

どうも、弟子たちの間に起こっている自分を偉くしようとする力が働いています。それぞれ、その信仰は弱いように見えても、それでも信仰を働かせて、たとえば悪霊追い出しをしているのです。そのような霊的な小さき者たちが、信仰を持つことから遠ざける、すなわち躓かせるのなら、「**大きな石臼を首に結び付けられて、海に投げ込まれてしまうほうがよい**」と言われています。この石臼は、ロバが引きような大きな物です。ガリラヤ湖の湖畔の遺跡に、当時のものが置いてありますが、かなりの大きさです。200キロは越えます。それを結び付けられて、ガリラヤ湖の下に投げ込まれた方が良いとまで、イエス様は言われるのです。特に海は、聖書では罪や悪が葬り去られることを意味します。かなり厳しいことですが、それだけ私たちが、他者の信仰が無くなるようなことを敢て行うことは避けなければいけない、ということです。そのためには、小さな子を受け入れるような心、小さな子の信仰を受け入れることは、イエス様を受け入れるようなことなのだ、ということを知らないといけないのです。

2A 自分をつまずかせる罪

そしてイエス様は次に、他者を躓かせる罪から、自分自身を躓かせることについて、警告しています。「**43 もし、あなたの手があなたをつまずかせるなら、それを切り捨てなさい。両手がそろっていて、ゲヘナに、その消えない火の中に落ちるより、片手でいのちに入るほうがよいのです。45 もし、あなたの足があなたをつまずかせるなら、それを切り捨てなさい。両足がそろっていてゲヘナに投げ込まれるより、片足でいのちに入るほうがよいのです。47 もし、あなたの目があなたをつまずかせるなら、それをえぐり出しなさい。両目がそろっていてゲヘナに投げ込まれるより、片目で神の国に入るほうがよいのです。」**

1B 永遠のいのち

何をもって、イエス様はここまで厳しいことを言われるのでしょうか？まず、主がここで文字通り、手足を切り離し、目を抉り出しなさいと言われたのではないことを心に留めたいと思います。イエス様が言われているのは、いつも心の事であり、体の部分の切断をしたところで、もし心で悪いことを抱いているとしたら同じことです。ここで大事なのは、「**いのちに入る**」という言葉です。永遠の命を持つということです。イエス様にあるいのち、神のいのちの賜物を受け入れるのに、自分のしたいこと、自分の手で掴んでいるもの、自分の足で行っているところ、また自分の目が楽しんでいものが邪魔をして、そのままキリストにある永遠の命を受け取るのを拒んでいるのであれば、手足を切っても、また目を抉り出したとしても、その価値はあるということです。

これはちょうど、足を怪我して、毒が回っている状況を考えて見ればよいと思います。もし足を切

り取らなければ、その毒は体全体に回ってしまい、自分は死んでしまうとなります。そうであれば、足は切り取っても、その体全体が生きるために、足を切る犠牲を払います。イエス様のところに行くのに、何か自分のしたいことがあって、そのために行くことができないものがあるでしょうか？そういったものも、すべてイエス様の足元に置いて、イエス様の前でひれ伏して、そして神の恵みを受け取るのです。

次の話はよく話していますが、ジャングルでの生活で、ココナツの実を中をくりぬいて、中に米粒を入れたしかけを作ります。猿をしとめるためですが、猿が手を入れるのに、かなりきついぐらいの小さな穴を開けています。猿は米粒をつかみ取りましたが、掴んだままだと手を抜くことができません。それで、人が来ました。このままだと捕まえられてしまいます。その猿のすることは、ただ一つ、米粒をあきらめることです。それを手から離れたら、手は穴から抜けます。けれども、米に固執していたのに、ついに自分自身が捕まえられて、自分自身が食べ物にされてしまった、という話です。ある人にとっては、それがお金かもしれませんね。イエス様は、それで金持ちの青年にかなり極端なことを言われました。全財産を売り払って、それで貧しい人たちを施しなさいということでした。彼に取って富がしがみついていたものなので、それを切り離さないと永遠の命に入ることはできないよ、ということだったのです。

2B 神と自分との分離

なぜ、これほどまでに罪から離れる必要があるのでしょうか？それは自分の罪が、神と自分を切り離しているからです。「イザ 59:1-2 見よ。【主】の手が短くて救えないのではない。その耳が遠くて聞こえないのではない。むしろ、あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。」自分の罪が、神との仕切りになっています。神は罪を受け入れることはできません。聖なる方であり、正しい方です。けれども、神は私たちに罪があるからと言って、それで神が見捨てて、離れるのではありません。私たちが罪を持っているので、私たちが神から離れているのです。

ホセアという預言者は、姦淫の女、売春をしている女をめとらなければいけません。結婚してからも、彼女は他の男のところに行きました。そして彼女が売られている時に、ホセアは買い取って自分のものに戻したのです。これが罪を犯している私たちと神との関係です。罪を犯している時、それは自分が神から離れています。神はいつでも、戻ってきてほしいと願われています。

3B 神の御怒り

けれども、もし二度と立ち戻らなかつたらどうなるのでしょうか？それが、死んで、死後に裁きを受けるということです。神の正しい裁きを下すことを、神の怒りと呼びます。神の怒りの中に留まった中でいなければいけません。「ロマ 2:4-5 それとも、神のいつくしみ深さがあなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かないつくしみと忍耐と寛容を軽んじているのですか。あなたは、頑な

で悔い改める心がないために、神の正しいさばきが現れる御怒りの日の怒りを、自分のために蓄えています。」神が私たちが何か失敗をして、それで怒りをためて、それをぶちまけるのではありません。そうではなく、神は悔い改める者を憐れもうと待っておられるのに、主のほうに向かない、立ち返らないので、神の怒りが留まったままになるということです。

48 節を見てください、「**ゲヘナでは、彼らを食らうじ虫が尽きることがなく、火も消えることはありません。**」とイエス様は言われました。これは、イザヤの預言の最後のところに出て来るものです。イザヤ書の最後には、新しい天と新しい地が造られるけれども、その人たちが、「わたしに背いた者たちの屍を見る。そのうじ虫は死なず、その火も消えず、それはすべての肉なる者の嫌悪的となる。(66:24)」とあります。そこでも、いつまでも悔い改めず、主に立ち返らなかった者たちがそのようになることが書かれています。

そして、「ゲヘナ」とは何でしょうか？これは、ギリシア語で「ヒノムの谷」という意味です。エルサレムの南を走っている谷ですが、そこで神に背いていたユダの民が、モレク神に対して、生まれてきた赤子を捧げるといふとんでもない忌まわしいことを行っていました(Ⅱ歴代 28:3、エレミヤ 7:31)。それで、ヨシヤの時代に、その忌まわしい行いをやめさせるために、そこを汚したとあります(Ⅱ列王 23:8)。そこに老廃物を捨てて、焼却していたのです。それでそこは絶えず火で燃えていて、かつ腐った物から蛆がわいていました。イエス様の時代には、神殿のいけにえによって出て来る老廃物が、そこに下水溝を通して流れるか、あるいはそこに廃棄して捨てられており、そして火で燃やされていたので、その様子を使って、「ゲヘナ」と呼ばれたのです。ですから、ゲヘナは弟子たちにとっては、かなり生々しいものであり、かつてエレミヤの時代にエルサレムの住民がバビロンによって滅ぼされて、そこに野垂れ死にしたことも、想像したかもしれません。

聖書には、もう一つ、ハデスと呼ばれる地獄の場所があります。そこは、「死者が終末の裁きを待つ間の中間状態で置かれる所」です。そこから最後の審判において出されて、復活して、白い大きな裁きの御座の前に立ちます。そして神の持つておられる書物にしたがって、行いに応じて裁かれます。いのちの書に名が書き記されていなければ、その人は火と硫黄の池に投げ込まれるのです。それがゲヘナであり、「神の究極の裁きにより、罪人が入れられる苦しみ場所」であります。(新改訳第二版の終わりを参照)ハデスが拘置所であるならば、ゲヘナは刑務所のようなものです。私がしばしば説明する時は、こう言います。「生きている時に裁判所に行かなかったとしても、死んでから、自分のしたことに対して必ず裁判を受ける。」

3A 自分の意志で行く地獄

1B 神も憎まれる所

地獄について、私たちが必ず知らなければいけないことは、神がそこに人々が行くことを望んでおられないし、憎んでおられる、ということです。有名なヨハネ 3 章 16 節の箇所を思い出してください

い、「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」一人として滅びることを望まないことを、はっきりと述べておられます。そもそも、神は地獄を、悪魔とその手下のために造ったことをイエス様がマタイ 25 章でお語りになっていました(41 節)。神は、そこに人々が入ることを意図しておられないのです。

2B 神の善を憎む心

では、なぜそこに行ってしまうのか？それは、神とその真理を自分が受け入れたくないと考えているからです。テサロニケ第二 2 章に、人々がサタンに欺きによって、不法の人によって惑わしを受けることが書かれています。「2:10 彼らが滅びるのは、自分を救う真理を愛をもって受け入れなかったからです。」自分が、神のすばらしい救いの真理を受け入れなかったからです。

ここでとても大事なことがあります。もし彼らが、天国に入ったらどうなるでしょうか？実は、彼らにとって天国は苦痛以外の何でもありません。神とキリストのすばらしさがそこには満ちています。私たちは恵みをこの地上で受けていますが、その源である方が天に住んでおられるのです。したがって、黙示録を見れば、天においては神とイエスが礼拝を受けているのです。もし、イエス様の名を何度も聞くのが嫌で、自分は自分のやりたいことをしたいのだ、としたら、どうでしょうか？教会というもの、礼拝というものを憎んでいて、およそイエスというものは要らないよ、と言っているのであればどうでしょうか？天国こそが地獄、苦しみのところとなっているのです。神は、「では、要らないと言っているところに行くしかないよ」と、その人を明け渡ししかないのです。人々は、恵みは欲しいのですが、恵みを与えられる方は拒んでいます。源を拒んでいては、いつまでもその賜物は続かないのです。

それが、死んだ後で気づきます。他の箇所でも、人々が「暗やみの中で歯ざしりする」ということをイエス様が言われています。それは、「何だよ、ふざけるなー！」とその苦しみの中で悔しがりますが、決して悔い改めることはないのです。黙示録には、地上で神からの懲らしめを受け、苦しんでいるのに、それでも悔い改めず、神を冒瀆している場面があります(16:9)。自分たちが神を拒み、その拒んでいることを好み、選んでいる姿です。どんなに苦しんだとしても、それが悔い改めのきっかけになることはなく、いつまでも、永遠に神の真理を愛をもって受け入れません。神はこのことを、とても憎んでいます。しかし、神とてご自身を拒む者を無理やり受け入れるようにすることはできません。神の形に造られているのですから、その自由意志を破ることはできないのです。

ですから、実は地獄というのは、神を拒んでいる人にはすでに始まっています。神を受け入れていない人には、天における至福の一部を味わうことができますが、拒んでいる人は既に裁きの一部を味わっているのです。ヨハネ 3 章にこう書いてあります。「ヨハ 3:18-20 御子を信じる者はさばかれぬ。信じない者はすでにさばかれている。神のひとり子の名を信じなかったからである。そ

のさばきとは、光が世に来ているのに、自分の行いが悪いために、人々が光よりも闇を愛したことである。悪を行う者はみな、光を憎み、その行いが明るみに出されることを恐れて、光の方に来ない。」御子は裁くために来られたのではなく、救うために来られたのです。けれども、悪を愛し、真理を憎み、闇を愛しているので、それで既に裁きを受けているとイエス様は言われています。そう、光を憎んで悪を愛している中で、すでに地獄の一部を味わっていると言ってよいでしょう。神の光や善のない世界です。

3B 神のかたちのゆえの永遠性

そして、地獄の煙は、世々限りなく立ち上る、とあります(黙示 14:11)。つまり、永遠の苦しみのことです。神が永遠の方なので、この神を拒むのであれば、それは永遠に拒むことになります。ですから、永遠の苦しみです。ある人は、「では消滅させればよいのに？」と思われるかもしれませんが、主はご自分の形に造られた者たちにその存在価値を与えておられるのです。そう、地獄は実は死刑ではなく、無期懲役のような存在です。無期懲役と死刑の違いは、良くお分かりだと思います。前者は人の生命までを取らないことによって、価値を認めています。死刑はその存在を否定することです。したがって、地獄はまだ存在を認めているだけ、消滅よりはましなのです。

いかがでしょうか？ 私たちが地獄ということを使う時に、積極的になれるのではないのでしょうか？ 神は、御子を死に渡し、苦しみを負わせるほどに私たちを愛されました。罪から来る離別を、御子が十字架の上で受けられました。それで、いのちを得るためです。この救いを拒むのであれば、拒むのに相応の世界を神は造りざるを得ないのです。どちらに進みたいですか？